

平成24年度 栃木県公立小中学校事務研究大会

平成24年11月29日（木）宇都宮市文化会館を会場に「創造しよう！子どもの豊かな育ちを支援する学校事務を」を大会テーマとし、平成24年度栃木県公立小中学校事務研究大会が開催されました。今年度は「イノベーション！共に高めよう、とちぎの学校事務を！！」をサブテーマとし、学校事務の「質」の明確化と具体化を図り、その実現に向けた事務職員の資質能力向上の方策やあり方についてを中心とした研修が行われました。



全体研究会Ⅰでは、文部科学省初等中等教育局参事官付運営支援推進係長の風岡 治氏より「質の高い教育を担う人材育成について」と題して講演をいただきました。

文部科学省では、教育の質を保証していくため「教員養成の改革」「教員免許制度の改革」など教員の人材育成の取り組みなどの具体的内容や今後の動向などについて詳しいお話をいただきました。

事務職員の人材育成に関しては、国都道府県において取組状況は非常に少なく、学校や共同実施、事務研の役割が重要であると共にぜひ現場からの声を上げてくれるよう期待していますとのお話がありました。



全体研究会Ⅱでは「未来を創る、事務職員の学びスタイル」というテーマでシンポジウムが行われました。全体研究会Ⅰでご講話をいただいた風岡 治氏、横浜市立市ヶ尾小学校校長の落合 孝氏、栃事研 岡崎信二会長をシンポジストに、栃事研 濱岡研究部長がコーディネーターとし、質の高い学校事務を担う事務職員の学びについて率直な意見交換が行われました。

事務職員の学びに対する国・栃事研・学校それぞれの現場にいる立場からの考えや役割、対応策など具体的なお話をいただきました。

また、会場にいらした今年度新規採用となった事務職員の方と、新人事務長となられた方から質問、疑問などを伺う場面もあり、参会者と一体化したシンポジウムとなりました。

企画・提案型の業務への移行やコミュニティ・スクールなど新たな業務への参画などに対応していくため、一人一人の能力開発につながる研修の重要性と「自学」の大切さ、その自学をしっかりと支える組織のあり方等を理解することができました。



支部発表では「高めよう自分！深めよう絆！」ー自立そして連携へーを研修テーマに、「人材育成支援」「実務能力向上」「学校支援」を研究の柱とし、それを基に実施している芳事研の実務研修や各市町の特性を活かした取組についての発表をいただきました。

急速な世代交代の時期を迎え、経験の浅い事務職員を支えるための必要な支援を明確にするため、会員へ「若年層・臨採に対する人材育成支援・研修支援を行う」ためのアンケートを実施し、それらの結果から支援を要する側と行う側の双方を合致させることで効率的な研修を行っているとのことでした。また、会場からは各地区の状況についてのお話もいただきました。

